

神は私たちとともにおられる

マタ 1 : 18~25

Mat 1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

Mat 1:19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようとした。

Mat 1:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」

Mat 1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

Mat 1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。

Mat 1:23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）

Mat 1:24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、

Mat 1:25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

イントロダクション

(1) 第1回聖地旅行

- ①取材旅行でもあった。
- ②エジプトでの体験。助け主がともにいてくれた。

(2) クリスマスの中心

- ①神が人となられた。
- ②「神が私たちとともにおられる」ことが証明された。
- ③インマヌエルの意味

(3) ヨセフの体験を通して、神が私たちとともにおられることを学ぼう

1. 神は、私たちが誕生する前から、私たちのことを知っておられる。

(1) ダビデの詩篇

「それはあなたが私の内臓を造り、母の胎のうちに私を組み立てられたからです。…あな

たの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに」（詩 139：13～16）

(2) ヨセフは、「ダビデの子ヨセフ」と呼ばれている。

- ①救い主は、ダビデの子孫から誕生する。
- ②ヨセフもマリアも、ダビデの子孫である。
- ③神は、ヨセフがイエスの義父となるように計画された。
- ④これは、永遠の計画である。

2. 神は、喜びの日に私たちとともにおられる。

(1) ヨセフとマリアは、ユダヤ式結婚式の準備をしたが、その間、神がともにおられた。

①いいなずけの期間（両親によるアレンジ）

②婚約期間

- *男性が女性の父に花嫁料を払い、婚約期間に入る。
- *婚約期間は、1年間続いた。
- *これは、花嫁の純潔を試す期間である。
- *もしこの期間に妊娠すれば、婚約は解消される。

③結婚式

- *花婿が花嫁を行列を作って迎えに行き、自分の家に連れ帰る。
- *結婚式と披露宴が行われる。

④実際の結婚生活が始まる。

(2) 人生には多くの喜びがある。

①神は、喜びの日に私たちとともにおられる。

3. 神は、苦しみの日々に私たちとともにおられる。

(1) ヨセフは苦しみを通じた。

- ①婚約期間にマリアの妊娠を知った。
- ②門のところで裁判を開いてもらい、離婚するという方法があった。
- ③しかしヨセフは、穏便に問題を処理しようとした。

(2) 神は、天使を通してヨセフを励ました。

①誕生する子は、聖霊によるものである。

- ②その名を「イエス」とつけよ。
- ③これは、イザヤ書の預言の成就である。
- ④その子は「インマヌエル」と呼ばれる。
- ⑤イエスの働きは、神がともにおられることを示すためである。
- ⑥ヨセフ自身が、神がともにおられることを体験した。

(3) リーダーシップセミナーの証し

- ①アン・ベイリーさんの来日
- ②40年前、留学中にビル・ムーアさん一家のお世話になった。
- ③経済的になんの保証もない時期に、大変よくしていただいた。
- ④40年後に分かるのは、神が私たちとともにおられたことである。
(ILL) シカゴの寒波。カーペットを敷いてくれたムーアさん。

4. 神は、死を越えて私たちとともにおられる。

- (1) ヨセフの死に関する言及はない。
 - ①イエスが12歳の時はまだ生きていた。
 - ②その後、死んだのであろう。
 - ③彼の死は、平安の中での死であったに違いない。
「主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い」 (詩 116 : 15)
- (2) イエスは、私たちの前を走り、死と復活を経験された。
 - ①今イエスは、栄光の座にあって私たちのために執りなしの祈りをしておられる。
- (3) イエスを信じる人は、イエスとともに死と復活を経験するのである。
 - ①死の彼方まで付き添ってくださるのは、イエスだけである。
- (4) どのようにしてイエスを信じればよいのか。
 - ①イエスは、私たちの罪のために十字架にかかり死んでくださった。
 - ②死んで、墓に葬られた。
 - ③三日目に甦られた。

結論：本当のクリスマスとは、イエスがともにおられることを体験することである。